

お金の話 あれこれ



お金の話 あれこれ

目次

お金の豆知識

- お札の偽造防止には、どのような技術が使われているのですか？ 1
－ お札の偽造防止技術 －
- 現在使われているお札以外にも、使える日本銀行券があるのですか？ 3
－ 現在通用する日本銀行券 －
- お札といえば「すかし」。お札の「すかし」はいつから使われている？ 5
－ すかしの登場 －
- お札にはどのくらいの数の色が使われているのですか？ 7
－ お札の印刷に使われる色の数 －
- 二千円券の他にも2の付くお金があるって本当？ 8
－ 「2」の付く日本銀行券 －
- 「大黒札」、「裏白二百円」、他にも通称を持つお札はあるのですか？ 9
－ 通称で親しまれている日本銀行券 －

お金をいろいろ比べてみたら…

- 日本で最初の貨幣は何？ 11
- 世界最大の貨幣は何？ 12
- 日本最古の紙幣と最初の日本銀行券は何？ 13
- 日本で最も大きいお札と最も小さいお札は？ 14

お札に登場した人物、動物

- お札に肖像として描かれた人物にはどのような人がいますか？ 15
－ 日本のお札の肖像あれこれ －
- 日本のお札に最も多く登場した人物は？ 17
- お札に登場した動物にはどんなものがありますか？ 19

もっと知りたい！ お金の話あれこれ

- 「銀座」があるなら「金座」もある！？ 21
－ 金座跡に建つ日本銀行本店 －
- 「軍票」とは… 22
- 新円切り替えと証紙貼付銀行券 23
- デザインの変更を余儀なくされた日本銀行券 25
- 発行されなかった日本銀行券 27

参考文献

お金の豆知識

お札の偽造防止には、どのよう

2004年（平成16年）に発行された日本銀行券の偽造防止技術は、①パソコン関連機器による偽造券の作成のしにくさ、②現金取扱機器（ATM等）

の偽造券検知能力強化に役立つもの、③目で見ると偽造券の発見のしやすさ、というコンセプトに基づいて選定されています。

—— 日本銀行券の図柄 ——

一万円券



表（肖像） 福沢諭吉



裏 平等院の鳳凰像（国宝）

五千円券



表（肖像） 樋口一葉



裏 「燕子花図」（国宝）
江戸中期の画家、尾形光琳の作品

千円券



表（肖像） 野口英世



裏 富士山と桜

な技術が使われているのですか？

— お札の偽造防止技術 —

一万円券には、さまざまな偽造防止技術が使われています。

深凹版印刷

従来のお札よりもインキが表面に盛り上がるように印刷されています。



すき入れバーパターン

光に透かすと、すき入れられた3本の縦棒が見えます。従来のすかしよりも、パソコンやカラーコピー機等で再現しにくいものです。



パールインキ

お札を傾けると、左右の余白部にピンク色を帯びたパール光沢のある半透明な模様が浮び上がります。



特殊発光インキ

表の印章（日本銀行総裁印）に紫外線をあてるとオレンジ色に光るほか、地紋の一部が黄緑色に発光します。



識別マーク
(深凹版印刷)

マイクロ文字

ホログラム

角度を変えると、画像の色や模様が変わって見えます。



(桜の模様)



(額面金額)



(日本銀行の「日」の文字を圖案化したマーク)

潜像模様

お札を傾けると、表面左下に「10000」の文字が、裏面右上に「NIPPON」の文字が浮び上がります。



識別マーク (深凹版印刷)

目の不自由な方が指で触って識別できるように、従来の「すかし」に代えて一層ざらつきのある「深凹版印刷」によるマークを導入しています。



マイクロ文字

「NIPPON GINKO」と書かれた小さな文字が印刷されています。従来の文字よりも小さい文字を取り入れているほか、新たに地紋（細かい曲線などで描かれたお札の地模様）にも大小取り混ぜた文字がデザインされています。



マイクロ文字

マイクロ文字



すき入れバーパターン すき入れ

現在使われているお札以外にも、使える日本

現行の一万円、五千円、二千円、千円の日本銀行券は、法貨（国の法律によって通用力を与えられた貨幣）として無制限に通用します。では、これら以外に現在も有効な日本銀行券が何種類あるか知っていますか。

日本銀行券の発行は、1885年（明治18年）の「旧十円券」（大黒天像 通称：大黒札）以来、全部で53種類に上りますが、うち31種類は法令（注）により通用力を失いました。この結果、現在も有効な日本銀行券は、現行券を除いて18種類となり、その内訳は次のとおりです。

（注）「^{だかん}兌換銀行券整理法」（1927年〈昭和2年〉）、「日本銀行券預入令」（1946年〈同21年〉）および「小額通貨の整理及び支払金の端数計算に関する法律」（1953年〈同28年〉）。



旧一円券



改造一円券



新一円券

まずは、3種類の一円券で、「旧一円券」（大黒天像）、「改造一円券」（武内宿禰像）、「新一円券」（同）です。このうち、「新一円券」は1943年（昭和18年）以降発行されたものです。一方、「旧一円券」・「改造一円券」は、それぞれ1885年（明治18年）・1889年（同22年）に発行が開始されました。

明治時代に発行された銀行券が現在も通用すると聞いて、意外に思われる方もいるのではないのでしょうか。

次は、1946年（昭和21年）の新円切り替え（P.23参照）に伴って発行が開始されたA系列（コラム参照）の「百円券」（聖徳太子像）、「十円券」（肖像なし）、「五円券」（同）、「一円券」（二宮尊徳像）と、1950年（同25年）から順次発行されたB系列

の「千円券」（聖徳太子像）、「五百円券」（岩倉具視像）、「百円券」（板垣退助像）、「五十円券」（高橋是清像）です。



A百円券



A十円券



B千円券



B五百円券



A五円券



A一円券



B百円券



B五十円券

銀行券があるのですか？

— 現在通用する日本銀行券 —

最後は、1957年（昭和32年）から順次発行されたC系列の「一万円券」（聖徳太子像）、「五千円券」（同）、「千円券」（伊藤博文像）、「五百円券」（岩倉具視像）と、1984年（同59年）より一齊

に発行が開始されたD系列の「一万円券」（福沢諭吉像）、「五千円券」（新渡戸稲造像）、「千円券」（夏目漱石像）です。



C一万円券



C五千円券



D一万円券



D五千円券



C千円券



C五百円券



D千円券

コラム

お札の呼び名にアルファベットが付けられるのはなぜ？

お札には明治以降、発行されたお札を分類するために記号が付されており、改刷（銀行券のデザインを一新すること）の都度変更されています。

例えば、2004年（平成16年）11月から発行されている福沢諭吉の一万円札、樋口一葉の五千円札、野口英世の千円札は「E」という記号を頭に付けて、それぞれE一万円券、E五千円券、E千円券と呼ばれています。E券の前のお札は「D」という記号が頭に付いており、守礼門の二千円札はD二千円券と呼ばれています。

これまでに発行されたお札の呼び名には、下表のような記号が使われています。

使用時期	シリーズ記号
明治中期～昭和10（1935）年頃まで	甲、乙、丙、丁
昭和17（1942）年頃～昭和20（1945）年頃まで	い、ろ
昭和21（1946）年以降	A、B、C、D、E

お札といえば「すかし」。お札の「すかし」はい

現行の日本銀行券には、偽造防止策の1つとして「すかし」が施されています。「すかし」は、紙の厚さを部分的に薄くする「白すかし」と、逆に部分的に厚くする「黒すかし」があり、日本銀行券には、この両者を組み合わせた精巧な「白黒すかし」が使われています。手抄き和紙の伝統技術に支えられたわが国のすき入れ技術は、濃淡の差がシャープで立体感があり、世界ナンバーワンと言われています。



E一万円券のすかし

「すかし」の技術は古く、中国では10世紀から、ヨーロッパでは12世紀から、わが国でも15世紀から存在していたとされています。

もっとも、「すかし」がお札に使用されるようになったのは17世紀からと言われており、例えば、スウェーデンのストックホルム銀行（1661年に世界で最初の銀行券を発行）が1666年に発行した銀行券に、「BANC O」の文字がすき入れられています。

「白すかし」は、便箋などにも使われていますが、「黒すかし」は、わが国では「すき入紙製造取締法」によってその製造が規制されています（政府または特別に許可を受けた者以外は作る事が出来ません）。

では、わが国で「すかし」がお札に登場したのはいつ頃だったのでしょうか？

江戸時代中期頃に発行された藩札の一部や、為替会社（殖産興業政策の一環として1869年〈明治2年〉に設置された金融機関）が発行した紙幣には、簡単な文字や模様がすき入れられていました。また、1882年（明治15年）に発行された「じんこうこうごう神功皇后像」の「改造紙幣五円券」（政府紙幣）には、トンボと桜花が「白すかし」ですき入れられています。



改造紙幣五円券

つから使われている？

— すかしの登場 —

ところで、日本銀行券の場合はどうだったのでしょうか？

日本銀行券の「すかし」は、最初の日本銀行券、つまり1885年（明治18年）に発行された「旧十円券」（通称「大黒札」）から採用されています。この銀行券には、「黒すかし」で分銅や打ち出の小槌、巻物などが、「白黒すかし」で日本銀行券の文字と桜花がすき入れられています。それ以降、日本銀行券には、戦後間もなく発行された「A十円券」、「A五円券」、「A一円券」、「A十銭券」、「A五銭券」の5種類を除き、ほぼ一貫して「すかし」が使われています。

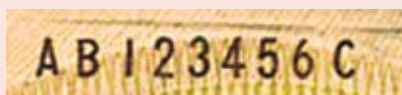


コラム

お札の表に印刷されているアルファベットと数字は何？

このアルファベットと数字は「記番号」と言います。現在発行されているお札は、アラビア数字6桁の数字を挟んでアルファベット24文字が、頭に1ないし2文字、末尾に1文字組み合わせられていて、「A123456B」や「CD777777E」というように表されています。アルファベットは全部で26文字ありますが、I（アイ）とO（オー）は数字の1と0に間違いやすいために使われていません。数字は、「000001」から「900000」までの90万記号が使われています。

これらの組み合わせにより、記番号は、129億6千万枚で一巡します。なお、一巡後は記番号の色を変えて表示されます。



お札にはどのくらいの数の色が使われているのですか？

— お札の印刷に使われる色の数 —

皆 さんは、銀行券には一体どのくらいの数の色が使われているか、知っていますか？

▼銀行券の刷色数

	表面	裏面
一万円券	14	7
五千円券	14	7
二千円券	15	7
千円券	13	7

▼一万円券の刷色数内訳

表面	地模様：10色 肖像、文字、唐草模様等：2色 印章と記番号：それぞれ1色
裏面	地模様：5色 平等院の鳳凰像、文字等：1色 印章：1色

お 札の印刷は色の組み合わせにより、①お札を美しく見せたり、②偽造しにくくしたり、③券種ごとに基調色を設けることで券種の区別をやすくする、といった効果があります。日本銀行券は、時代の移り変わりとともに多色刷りとなってきており、現行券では、表面に13～15色、裏面に7色用いられています。券種ごとの刷色数は右表のとおりです。

な お、微妙な色合いを特徴とする日本のお札は、一見しただけでは何色使われているか判別しにくいかもしれません。どの部分に何色使われているか、「一万円券」を例にとって刷色内訳を右に示しますので、一度じっくりとご覧下さい。

コラム

使われている色の数が最も少ないお札は？

ちなみに、わが国で発行されたお札の中で最も刷色数の少ないお札は、1927年（昭和2年）の金融恐慌時に発行された「乙二百円券」です。今では到底考えられないことですが、この「乙二百円券」は極めて短期間に製造されたこともあって、表面の印刷が2色、裏面は印刷なしの無地という状態でした。



乙二百円券（表）



同（裏）

二千円券の他にも

2の付くお金があるって本当？

—「2」の付く日本銀行券—

現在発行されている二千円券の他にも、「2」の付くお金はあります。かつては国立銀行が二円紙幣を発行したこともあります。日本銀行が発行し

た「2」の付く銀行券としては、二十円券、二百円券、二千円券の3券種があります。それぞれについて見てみましょう。

二千円券

— 千円券の図柄は、表面に首里城の城門の1つである「守礼門」が採用され、裏面の左側には約1000年前に記された源氏物語を元に描かれた「源氏物語絵巻」の一場面に詞書を重ねあわせたものを配しています。また、裏面の右側には、源氏物語の作者である紫式部の絵が描かれていますが、銀行券の図柄に女性の人物像が登場したのは初めてのことです。



二千円券 (表)



同 (裏)

二十円券

— 十円券は1917年(大正6年)発行の「甲二十円券」(菅原道真像)と1931年(昭和6年)発行の「乙二十円券」(藤原鎌足像)の2種類です。前者は額面の表示が右横書き、後者は縦書きであったほか、後にも先にも日本銀行券で二十円券はこの2種類だけだったことから、それぞれ「横二十円」、「縦二十円」と呼ばれることもあります。



甲二十円券



乙二十円券

二百円券

また、二百円券については、1927年(昭和2年)の金融恐慌時に緊急発行された裏面が白地の「乙二百円券」(通称:裏白二百円券)と1945年(同

20年)に発行された「丁二百円券」(藤原鎌足像)および「丙二百円券」(武内宿禰像)の3種類です。



乙二百円券



丁二百円券



丙二百円券

「大黒札」、「裏白二百円」、他にも通称を持つ

— 通称

これまで「裏白二百円」、「横二十円」、「縦二十円」など、通称を持つ日本銀行券が登場しました。ここでは、通称で親しまれている日本銀行券を紹介します。

まずは、「分銅五円」の通称で親しまれている「改造五円券（菅原道真像）」（1888年〈明治21年〉）です。このお札の呼称は、表面に重さを秤る分銅の形が描かれているほか、地紋にも小さな分銅が描かれていることに由来します。このお札は、1886年（明治19年）に発行された「旧五円券（大黒天像）」（通称「大黒札」の1つ）の改良^{（注）}を目的に発行された改造券で、初めて歴史上の人物像を採用した日本銀行券です。なお、大黒札には、旧五円券のほか旧一円券（現在も有効）、旧十円券、旧百円券（いずれも1885年〈明治18年〉発行）があり、図柄に商売や農業の神様である大黒天の座像が描かれているところから、こう呼ばれています。

（注）大黒札は、偽造防止のため青色インクを利用していたが、化学反応を起こしやすい原料（鉛白）が含まれていたため、温泉地等では硫化水素と化学反応を起こして黒色に変化し、かえって偽造が容易になったほか、紙質強化を目的としてこんにゃく粉を混ぜていたためねずみや虫の被害が多発したと言われています。



分銅五円



大黒札（旧一円券）

次は、旧五円券と同様の理由から「旧百円券」を改造して発行（1891年〈明治24年〉）された「改造百円券（藤原鎌足像）」です。このお札は、「メガネ百円」、「メガネ札」、「メガネ鎌足」などと呼ばれています。その理由は、表面の周囲地紋の形がメガネに似ているためです。「メガネ鎌足」は、その後改刷され「甲百円券（藤原鎌足像）」として発行（1900年〈明治33年〉）されましたが、このお札の裏面に紫色が多用されていることから、「むらさき百円」、「裏むらさき百円」、「むらさき」などという通称で親しまれています。なお、「メガネ百円」は、日本銀行券の中で最も大きいお札です（縦130mm×横210mm）。



メガネ百円



むらさき

お札はあるのですか？

で親しまれている日本銀行券

最後は、「表猪」^{おもていのしし}、「裏猪」^{うらいのしし}と呼ばれるお札です。「表猪」は、「旧十円券」を改造（理由は前述と同様）して発行された「改造十円券（和氣清麻呂像）」で、1890年（明治23年）に発行されました。このお札は、表面に8匹の猪が配されていたため、後に「表猪」と呼ばれるようになりました。一方、「裏猪」は、「表猪」を改刷して発行（1899年＜明治32年＞）された「甲十円券（和氣清麻呂像）」で、裏面中央に1匹の猪が描かれていたため「裏猪」（または単に「いのしし」）と呼ばれるようになりました。

ちなみに、『続日本紀』によれば、時の称徳天皇^{しょうとく}に代わり弓削道鏡^{ゆげのどうきょう}が皇位を継承しようとした際、和氣清麻呂がこの企てを阻止し、これに立腹した

道鏡が手先を遣って清麻呂を暗殺しようとした瞬間、猪300匹が現れ彼を守ったという伝説があります。



表猪



裏猪

コラム

お札で円のローマ字表記を「YEN」としているのはなぜ？

1872年（明治5年）発行の政府紙幣「明治通宝」のほか、日本銀行券についても、1885年（同18年）の初めての発行以降すべて円は「YEN」と表示されています。

「円」を「EN」ではなく、「YEN」と表記している根拠は、はっきりとしていませんが、以下のようなさまざまな見方があります。

(1) 発音上の理由

「EN」は外国人が発音すると「エン」より「イン」に近いものとなるとして、子音Yを付けて「YEN」としたのではないかとの見方です。ちなみに、幕末日本を訪れた外国人の記録には、「江戸」を英語で「YEDO」と表現したものがあります。

(2) 諸外国の語句との区別

「EN」は、オランダ語では「～と」、「そして」の意、スペイン語、フランス語では「～の中に」の意で頻繁に使用されるため、これらとの混同を回避したとの見方です。

(3) 中国の「圓（ユアン）」からの転訛^{てんか}

中国の「元」紙幣は、表に「〇圓」、裏に「YUAN」と表示されていました。これが「YEN」に転訛したとの見方もあります。

お金をいろいろ 比べてみたら…

日本で最初の貨幣は何？

律 令に基づく中央集権国家の建設を目指した日本では、中国の金属製のお金（銭貨）を手本にして、7世紀後半から貨幣がつくられました。これが日本で最初に国家によって鑄造された銅銭、「富本銭」です。

「富本銭」は、銅とアンチモンの合金で、外形が丸く中央に四角い穴があいた円形方孔銭でした。都づくりのため貨幣として流通させたとする説のほか、まじない用の銭貨とする説もあります。

ち なみに、当時、文字や文様がない「無文銀銭」があったことも知られています。「無文銀銭」は、銀片を貼って重さが約10gに整えられており、銀の地金価値で使われていたものではないかと考えられています。

「日本書紀」には、683年に銀銭の使用を禁じ、銅銭の使用を命じたことが記されていますが、奈良文化財研究所による飛鳥池遺跡（奈良県明日香村）の発掘調査で、この使用を禁じられた銀銭が「無文銀銭」で、使用を命じられた銅銭が「富本銭」であることが明らかになりました。これにより、「富本銭」が、これまで国家により鑄造された日本で最初の貨幣と考えられていた「和同開珎」よりさらに古い貨幣であることがわかりました。



富本銭（左）と無文銀銭（右）
（写真提供／奈良文化財研究所）

コラム

和同開珎とは？

「和同開珎」は、唐（中国）の先進的な文化や制度を積極的に取り入れようとしていた当時の律令国家によって、唐の「開元通宝」をモデルとして708年（和銅元年）にまず銀銭が、その後、銅銭が発行されました。国家は、銭貨を製造する役所「鑄銭司」でそれらの銭貨を独占的に生産し、発行を管理し、偽金づくりも禁止しました。

貴族や役人の給料の一部のほか、平城京の造営といった国家プロジェクトにあたる労働者の日当・資材の購入代金が、「和同開珎」で支払われました。平城京では、人々は給料として受け取った銭貨を使って市で食料や工芸品などを購入していましたが、引き続き米や絹、麻の布などもお金として使われました。

また、全国的にお金が流通することを目指して、米や布などのほかに「和同開珎」でも税を納められるようにしました。



和同開珎の銀銭（左）と銅銭（右）

世界最大の貨幣は何？

現 在知られている貨幣の中で最も大きいものは、西太平洋のヤップ島において、結婚式等の特別な儀式や不動産売買等で使われている「フェイ」という石貨（円形ないしは長円形）です。

「フ ェイ」は、ヤップ島から400 km以上離れたパラオ島で切り出し、カヌーで運んできたもので、大きいものでは直径が3.6 mに達すると言われています（写真は日本銀行金融研究所貨幣博物館所蔵の「フェイ」で、長径が87 cm、重さは推定約100 kgあります）。こうした大型の「フェイ」の真ん中には穴があいており、棒を差し込んで2人で持ち運びができるようになっています（もちろん、直径が数10 cmで持ち歩けるものもあります）。

も っとも、大型の「フェイ」については、所有権を移転させる場合も、実際に「フェイ」そのものを移動させることは稀であると言われています。これは、大型の「フェイ」が非常に重く簡単には動かせ

ないことに加え、ヤップ島の生活が穏やかで、誰も他人のお金を持っていかうとはしないためと言われています。

な お、現在、ヤップ島で日常的に使用されている通貨は米ドルであり、このため、新たに石灰岩を切り出して「フェイ」を製造することはないそうです。



フェイ

コラム

日本で最大の貨幣は？

てんしょうなが おおぼん
「天正長大判」と呼ばれる金貨です。

これは、豊臣秀吉が彫金師のごとうとくしょう後藤徳乗らに命じて、天正16年(1588年)から造らせた大型の金貨の1つで、長径が約17 cm、短径は約10 cmあります。この大判は、日常取引用のいわゆる通貨としてではなく、恩賞用など特殊な目的に用いられることが多かったようです。

なお、大判の表面には「拾両」および「後藤」の文字とかおう「花押」(様式化された自筆の判)が墨書きされています。ちなみに、「拾両」というのは額面金額ではなく、重さが約165 gであることを示しています。



天正長大判

日本最古の紙幣と最初の日本銀行券は何？

日本で最も古い紙幣は、安土桃山時代末期、1600年頃に伊勢山田地方（現在の三重県伊勢市）で流通し始めた「山田羽書」であると言われています。

「山田羽書」は、伊勢神宮の神官であった山田御師（祈祷奉賽を行う神官で商人も兼ねていました）によって秤量（びょうりょう）銀貨の釣り銭の代わりに発行された、端数銀貨の預かり証（端書）でした。当時、銀貨は額面を持たず、重さを量って使う秤量貨幣だったので、端数を調整するために切遣い（必要な目方だけ切って使用）する習慣がありました。しかし、元和年間（1615～24年）に幕府が銀貨の切遣いを禁止したため、羽書は端数処理の簡便化に役立ちました。後に、一定の額面を持つようになり、伊勢神宮信仰にも支えられた山田羽書は、人々の非常に高い信用を得て、単なる預かり証から次第に人々の間で流通する紙幣としての役割を果たすよう

になりました。また、「山田羽書」の影響を受けて周辺地域でも有力商人による羽書の発行が見られるようになり、これらの私札は後の藩札の元になったと言われています。



山田羽書

では、わが国で最初に発行された日本銀行券は何だったのでしょうか。

それは、1885年（明治18年）5月9日に発行された「旧十円券」です。この銀行券は銀貨兌換券で、券表面には「此券引かへに銀貨拾圓相渡可申候也」と記されています。



旧十円券

コラム

世界で最初の銀行券は？

ちなみに、世界で最初の銀行券は、スウェーデンにおいて1661年に、重くて大きい銅板貨幣の代わりに、ストックホルム銀行が発行した信用券であると言われています。



ストックホルム銀行券（1666年）

日本で最も大きいお札と

最も小さいお札は？

皆さんは、わが国で製造・発行されたお札の中で一番大きいお札は何か、そしてそのサイズはどれくらいかご存知ですか？

それは、1891年（明治24年）に発行された藤原鎌足が描かれた「改造百円券」で、大きさは、縦130mm、横210mmというものです。これは、現行の一万円券より縦横ともに50mmほど大きいお札で、A4サイズ（この冊子のサイズ）の約半分の大きさと言えばイメージしやすいかもしれません。

ちなみに、世界に目を転じると、1375年（天授元年）に発行された中国明代の「大明通行宝鈔」（縦338mm、横220mmでA4サイズよりやや大きい）が最も大きいお札とされています。

では、わが国で一番小さいお札は何かというと、1948年（昭和23年）に発行された「A五銭券」です。梅の花が描かれたこのお札は、縦48mm、横94mmと小型で、戦後すぐに発行された小額券だったこともあって、すかしもなく、記号だけが印刷された簡単なお札でした。



A五銭券



改造百円券



大明通行宝鈔

コラム

世界の小さいお札

なお、世界の小さいお札にはどのようなものがあるかというと、1915年（大正4年）から1919年（同8年）にロシアで発行された「切手紙幣」（縦31mm、横24mm）のほか、第一次大戦の戦中戦後、1914年（同3年）から1923年（同12年）のドイツでの超インフレ時代に州・市町村単位で発行された「ノートゲルト」という小額代用紙幣が挙げられ、縦横ともに18mmというものもあったとされています。



切手紙幣



ノートゲルト

お札に登場した 人物、動物

お札に肖像として描かれた人

+2000

日 本銀行券では現行紙幣を含めて16名、政府紙幣(注)では2名が登場しており、具体的には右のとおりです。

ち なみに日本銀行券の表面に女性の肖像が採用されたのは、現行の五千円券の樋口一葉が初めてです。なお、政府紙幣まで含めると、右表のとおり「神功皇后像」が使われたことがあります。これは、1881年(明治14年)~1883年(同16年)に政府紙幣である「明治通宝」の偽造対策として発行された改造紙幣で、一円券、五円券および十円券の3種類がありました。



改造十円券

	人物名
日本銀行券	(戦前) 菅原道真、和気清麻呂、武内宿禰、 藤原鎌足、聖徳太子、日本武尊
	(戦後) 二宮尊徳、岩倉具視、高橋是清、 板垣退助、聖徳太子、伊藤博文、 福沢諭吉、新渡戸稲造、夏目漱石、 樋口一葉、野口英世
政府紙幣	神功皇后、板垣退助

(注) 政府紙幣とは、1868年(明治元年)から1872年(同5年)にかけて政府が発行した紙幣で、太政官札、大蔵省兌換証券、開拓使兌換証券、明治通宝などがあり、1878年(同11年)に明治通宝に統一されました。なお、1872年(同5年)には「国立銀行条例」が制定され、1873年(同6年)以降は「国立銀行券」も発行されました。

お札に肖像が利用される理由は？

大 きな理由としては、2つ挙げることができます。
第 1は偽造防止のためです。私たちは人の顔を見分けることに慣れているため、銀行券の肖像がほんの少しでもずれたりぼやけたりしていると違和感を持ち、偽造防止に繋がります。第2は人々に親近感を持ってもらうためです。その国で良く知られている政治家、文化人、有名人などを描き、その人物の業績などを再認識して親近感を持ってもらうとともに、銀行券自体についても認識を深めてもらう狙いがあります。

肖像の人物選定に

基準はあるのでしょうか？

お 札に使用される肖像の人物選定に明確な基準があるわけではありませんが、注意が払われている点はいくつかあります。例えば、①極力実在の人物で、業績があり知名度も高く親しみやすいなど、国民から尊敬され日本を代表するような人物であること、②偽造防止の観点から、簡単に複製できず、かつ人の目を引く特徴のある顔であることなどです。

物にはどのような人がいますか？

— 日本のお札の肖像あれこれ —

眼鏡をかけている人、^{ひげ}髭のない人

まず、眼鏡をかけているのは、新渡戸稲造（D五千円券）、日本銀行総裁も務めた高橋是清（B五十円券）だけです。また、肖像に使われた人物の多くは髭があり、髭のない人物には、福沢諭吉（DおよびE一万円券）、二宮尊徳（A一円券）と岩倉具視（BおよびC五百円券）、そして女性であるE五千円券の樋口一葉がいます。



D五千円券



B五十円券



D一万円券



A一円券



B五百円券

肖像の位置は右側と決まっているのですか？

日本銀行券の肖像はこれまで券表面の右側に描かれるのが殆どでしたが、C五千円券の肖像は、券表面の中央に描かれています。これは、肖像にC一万円券と同じ聖徳太子が採用されたためです。銀行券の大きさは違いますが（C五千円券の方が縦4 mm、横5 mm小さい）、同じような色調で同じような肖像を用いたC五千円券とC一万円券との区別を容易にするための工夫だったのです。

また、一度だけ左側に描かれたこともあります。それは、1915年（大正4年）に発行された「乙十円券」で、肖像には和氣清麻呂が使われています。もっとも、銀行などでお札を勘定する際には、従来より左手でお札を持ち肖像と向き合うようにして数えるのが一般的であるため、このお札が発行された当時、「十円札だけ肖像が確認しにくく不便」との声が寄せられました。それ以降、肖像が表面左側にレイアウトされることはなくなったそうです。



C五千円券



C一万円券



乙十円券

日本のお札に最も多く登場した人物は？

聖^{しょう とくたいし}徳太子で、1930年（昭和5年）に発行が始まった「乙百円券」に初めて採用されて以来、「銀行券の顔」として最も多く登場（戦前2回、戦後5回）しています。また、登場回数もさることながら、C五千円券とC一万円券は、四半世紀以上にわたって発行され（戦後に発行された日本銀行券では、発行期間が最も長い）、長年、国民に親しまれました。このため、いつのまにか国民の間に、「聖徳太子は日本銀行券の

代名詞」というイメージが浸透していったようです。さらに、聖徳太子像は、いずれも発行当時の最高額券に採用されたことから、「聖徳太子＝高額のお札」というイメージもあるようです。もっとも、聖徳太子像を使わない日本銀行券が発行されてから長い年月が経過しているため、こうしたイメージは徐々に薄れつつあるかもしれません。

ところで、聖徳太子像がこれだけ多くの日本銀行券に採用された理由は何でしょう？ それは、①「十七条の憲法」を制定したり、仏教を保護したり、中国との国交回復や遣隋使の派遣により大陸文化を採り入れるなど、内外に数多くの業績を残したため、国民から敬愛され知名度も高いこと、②歴史上の事実を実証したり、肖像を描くためのしっかりした材料があること、が大きな理由のようです。



乙百円券
1930年（昭和5年）1月11日



い百円券
1944年（昭和19年）3月20日



ろ百円券
1945年（昭和20年）8月17日



A百円券
1946年（昭和21年）3月1日



B千円券
1950年（昭和25年）1月7日



C五千円券
1957年（昭和32年）10月1日



C一万円券
1958年（昭和33年）12月1日

なお、GHQ（連合軍最高司令部）は1946年（昭和21年）、かつて日本政府が決定した「肖像に相応しい人物」について、「聖徳太子以外は、軍国主義的な色彩が強いため、肖像として使用することを認めない」としました。この時、聖徳太子についても

議論があったようですが、当時の一萬田日銀総裁はGHQに対し、「聖徳太子は『和を以って貴しとなす』と述べるなど、軍国主義者どころか平和主義者の代表である」と主張して、その存続についてGHQを押し切ったとされています。

コラム

日本のお札の肖像で最も長く使われた人物は？

歴史上の人物で、肖像として一番長く使われたのは誰なのでしょう？ そして、どのような銀行券なのでしょう？ それは、1889年（明治22年）5月1日から発行された「改造一円券」の武内宿禰たけのうちのすくねです。この改造一円券は、1958年（昭和33年）10月1日に発行が停止されましたが、法律上は現在も使える銀行券（P.3参照）で、130年以上の歴史を有しています。

ちなみに、この改造一円券は、日本銀行が1885年（明治18年）9月8日から発行した「旧一円券」の改良を目的に発行されたものですが、歴史上の人物に限定しなければ、旧一円券に描かれている大黒天像が最も長く使われていることとなります。

なお、通用期間が最も短かった肖像付きの銀行券は、和氣清麻呂わけのきよまろの「ろ十円券」と聖徳太子の「ろ百円券」です。これらは、1945年（昭和20年）8月17日から発行されましたが、約6ヶ月後の翌年3月2日、新円切り替えに伴い発行が停止され、通用力も失いました。（注）

（注）発行期間では、1927年（昭和2年）の金融恐慌時に発行された乙二百円券（通称：裏白二百円券）が約2週間と最短（P.8参照）でした。もっとも、この銀行券の通用期間は、1946年（昭和21年）3月2日までの約19年だったほか、この銀行券に肖像は描かれていませんでした。



改造一円券



旧一円券



ろ十円券



ろ百円券

お札に登場した動物にはどんなものがあります

銀 行券のデザインには、肖像のほか、動物や風景が採用されることが少なくありません。

1 885年（明治18年）に最初の日本銀行券（旧十円券）が発行されて以来、日本銀行券には8種類の動物が登場しています。まず、通称「大黒札」と呼ばれている「旧十円券」などにねずみが、「改造十円券」（1890年＜明治23年＞）および「甲十円券」（1899年＜同32年＞）に猪が描かれています。表に猪が描かれている「改造十円券」は通称「表猪」、裏に猪が描かれている「甲十円券」は「裏猪」と呼ばれています（P.10参照）。また、「い五銭券」（1944年

＜昭和19年＞）に馬、「A一円券」（1946年＜同21年＞）にニワトリ、「A十銭券」（1947年＜同22年＞）に鳩、「C五千円券」（1957年＜同32年＞）にライオンが描かれています。そして、1984年（昭和59年）に発行された「D一万円券」には国鳥である雉が、「D千円券」には特別天然記念物に指定されている丹頂鶴が描かれています。

な お、このほか、鳳凰（古来瑞兆として尊ばれる想像上の鳥）が何回か登場しており、現行の一万円券には平等院に据えられている鳳凰像が描かれています。



旧十円券（ねずみ）



甲十円券（猪）



い五銭券（馬）



A一円券（ニワトリ）



A十銭券（鳩）



C五千円券（ライオン）



D一万円券（雉）



D千円券（丹頂鶴）



ろ十円券（鳳凰）

すか？

ちなみに、1868年（明治元年）から1872年（同5年）にわが国政府が発行した「政府紙幣」には、鳳凰や竜、竜馬といった想像上の動物のほか、孔雀、千鳥、トンボ、貝が描かれています。



明治通宝（表：鳳凰、竜）



同（裏：孔雀、千鳥、トンボ、貝）

また、1938年（昭和13年）、日中戦争の拡大を背景に金属資材が不足し、貨幣の鑄造が困難となった際に制定された臨時通貨法に基づき、政府が発

行した五十銭紙幣（1942年〈昭和17年〉）にはトビが描かれています。



民部省札（竜馬）



五十銭紙幣（トビ）

もっと知りたい！ お金の話 あれこれ

「銀座」があるなら 「金座」もある!?

— 金座跡に建つ日本銀行本店 —

皆さんは、「金座」という言葉を聞いたことがある
でしょうか？

「金座とは、江戸幕府から大判を除くすべての金
貨の製造を独占的に請け負った貨幣製造機関の
ことで、金貨の製造のほか、通貨の発行という現在の
中央銀行業務に相当する役割を担っていました。

「金座の初代の長となった後藤庄三郎光次は、
1595年（文禄4年）、徳川家康の命により、
御用彫金師であった後藤徳乗の代わりとして江戸に赴
き、本町1丁目に屋敷を構え、金貨の製造に携わりま
した（以後、金貨の製造は光次を祖とする後藤庄三郎
家が長となって行いました）。「金座」は、江戸のほか
に、京都、佐渡、駿河にも開設されました。当時、製
造所は設けられておらず、幕府から金貨製造の許可を
得た「金吹き」と呼ばれる小判師が、後藤家の指図の

下、自宅で判金を製造していました。判金は、後藤家
の屋敷内に設けられた後藤役所で検定され、後藤家の
極印を打たれて初めて貨幣としての価値が生まれまし
た。その後、1695年（元禄8年）に慶長金が元禄金
に改鑄される際、江戸の本郷靈雲寺近辺に吹所（製造
所）が設置されました。この時、京都など各地の小判
師は江戸に呼び戻され、後藤役所で行われていた検定・
極印打ちを含む製造作業はすべて本郷の製造所に集約
されました。しかし、1698年（元禄11年）には本
郷の吹所が廃止され、再び本町1丁目の後藤家の屋敷
で製造作業が行われるようになり、幕末まで続きました。
なお、「金座」は、当初「小判座」（佐渡は小判所）
と呼ばれていましたが、「金座」と呼称されるようにな
り、京都、佐渡は江戸金座の出張所となりました（駿
河は17世紀初頭に廃止）。



江戸の金座絵巻
(左側)

「出来金改所（できがねあらためじょ）」

… 出来上がった小判の形状、量目を検査し、形の不整なものを
除き表裏の極印を改める。

(右側)

「分棹裁切場（ぶざおたちきりば）・分棹改場（ぶざおあらためば）」

… 小判の幅に延ばした金の細長い板（分棹）を切断し、その重量
を秤る。

さて、後藤家の屋敷があった「本町1丁目」は、
現在の日本橋本石町に当たります。すなわち、
日本銀行の本店建物は、まさに江戸時代の「金座」跡に
建っているのです。日本銀行は1882年（明治15年）、
永代橋のたもとの旧北海道開拓使東京出張所の建物で

業務を開始し、1896年（同29年）に現在の場所へ
移転しましたが、旧館本館の建築中（1890年<明治
23年>着工）は、かなりの金粒が採取されたと言わ
れています。

「軍票」とは…

「軍票」とは、「軍用手票」の略称で、戦時中、占領地区において軍費を賄うために政府が発行したお札の一種です。わが国では、1894年（明治27年）に勃発した日清戦争時に5種類の軍票が初めて発行されました。その後も日露戦争、日中戦争、太平洋戦争など、対外戦争の都度発行され、太平洋戦争時には実に50種類以上の軍票（「南方開発金庫券^(注)」を含む）が発行されました（下表参照）。

日清戦争（1894～95年）	5種類
日露戦争（1904～05年）	6〃
青島出兵（1914～22年）	6〃
シベリア出兵（1918～22年）	6〃
日中戦争（1937～太平洋戦争へ）	35〃以上
太平洋戦争（1941～45年）	50〃以上

（注）「南方開発金庫券」は、東南アジア・西南太平洋の作戦地域へ資金供給等を行うため、1942年（昭和17年）に政府が設立した「南方開発金庫」発行の軍票です。同年以降、「軍票」は「南方開発金庫券」と呼称されました。



日露戦争軍用手票



南方開発金庫券

また、第二次大戦末期以降、諸外国に進駐した連合軍は多くの軍票を発行し、日本本土でも1945年（昭和20年）8月末頃から「B号円表示補助通貨」



B式軍票

（以下、「B式軍票」）を発行しました。日本政府は軍票の乱発によるインフレーションの助長などを懸念し、連合軍に軍票の発行取り止めを強く要請するなど、精力的な交渉を行いました。その結果、連合軍は日本政府の要請を受け入れ、翌月上旬には「B式軍票」の回収を開始したため、本土での本格的な使用は回避されました。もっとも、回収された「B式軍票」は未発行分とともに琉球（沖縄県および鹿児島県の一部）に回送され、「B円」の呼称で1958年（昭和33年）まで法貨として使用されました。

ところで、わが国の軍票の起源を知っていますか？ それは、「西南の役」（1877年〈明治10年〉）に際し、軍資金に窮した薩摩軍が発行した「西郷札」と呼ばれる6種類の布製（紙の表裏に布を貼り合わせ）の軍用紙幣であるとされています。

もっとも、「西郷札」は反政府軍が発行したものであるため、厳密な意味では軍票ではありません。



西郷札

新円切り替えと証紙貼付銀行券

第二次大戦後のわが国では、戦災により企業等の生産設備が打撃を受け、生活物資の供給不足が生じました。そうした中で、旧軍人への退職金の支払いなどにより臨時軍事費の支出が嵩み、これに伴い、物価が高騰し、預貯金の引き出しが激しくなり、銀行券の発行高が急激に増えるなど、猛烈なインフレーションに見舞われました。

政府は、この激しいインフレーションに対処するため、1946年（昭和21年）2月16日、「総合インフレ対策」を発表しました。この総合対策の柱となったのが、「金融緊急措置令」と「日本銀行券預入令」です。これらは、

- ①同年2月17日以降、全金融機関の預貯金を封鎖する、
- ②流通している十円以上の銀行券(旧券)を同年3月2日限りで無効とする(同年2月22日、五円券追加)、
- ③同年3月7日までに旧券を強制的に預入させ、既存の預金とともに封鎖する一方、新様式の銀行券(新円)を同年2月25日から発行し、一定限度内に限って旧券との引き換えおよび新円による引き出しを認める、

というものでした。

これが、いわゆる「新円切り替え」です。

さて、この総合対策の一環として、様式を変更した新しい銀行券の発行と、旧様式券の流通停止を準備していましたが、同対策の実施時期が当初想定より半年程度繰り上げられたため、新様式券（A一円・五円・十円・百円券）の製造が時間的に間に合いませんでした（発行開始は、A百円および十円券が3月1日、A五円券が同月8日、A一円券が同月20日）。そこで政府は、新様式券の代わりに、同年2月20日公布の「日本銀行券預入令ノ特例ノ件」によって、千円、二百円、百円および十円の証紙4種（唐草模様をあしらった簡単なもので、大きさは縦27mm×横18mm程度）を発行し、これを旧券の表面に貼付することで臨時的に新円と見なすこととしました。これが、「証紙貼付銀行券」と呼ばれるものです。



証紙



証紙貼付銀行券

証紙は、日本銀行のほか、各地の金融機関に配布され、1枚1枚の銀行券に糊付けする作業が徹夜で行われたと言われています。また、こうした通貨措置計画は秘密裏に進められていましたが、いつのまにか国民に知れ渡るようになってしまいました。「五円以下の小額紙幣は封鎖を免れる」というので、多くの駅で十円券や百円券で五円以下の釣り銭目当てに切符を買おうとする人々が長蛇の列を作ったほか、たばこ

屋でも同じような現象が見られた（当時ピースという煙草が七円だったため十円券で買入れ）、というエピソードが残っています。

な お、臨時的に発行された証紙貼付銀行券は、徐々に新様式券の発行元が充実していったため、1946年（昭和21年）10月末をもって通用が停止されました。



証紙を貼る作業風景

デザインの変更を余儀なくされた日本銀行券

1 946年（昭和21年）の新円切り替えに伴い、A系列の日本銀行券が発行されました（P.23参照）。ここでその製造・発行にまつわるエピソードを紹介します。

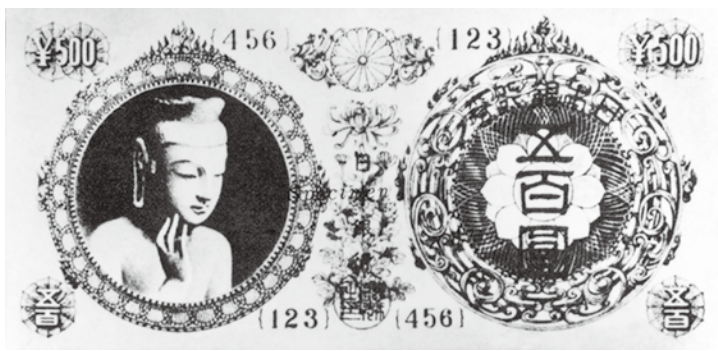
1 945年（昭和20年）10月25日、大蔵省金融局は、同省印刷局および凸版印刷などの民間印刷業者（4社）に対し、新しい様式の銀行券の図案作成を指示しました（一円、五円、十円、百円、五百円、千円の6券種）。金融局は、全部で53点提示された図案の中から凸版印刷が作成した図案を採用し、新しい銀行券を発行する準備を始めました。ところが、直後の同年11月28日、GHQ（連合国最高司令部）が

日本政府に対して、『新通貨発行の統制方及流通通貨量報告方に関する総司令部覚書』を發出し、「新様式の通貨の製造・発行は事前承認を要する」としました。そのうえ、「高額券の発行はインフレを助長する恐れがあるため、好ましくない」と指摘してきました。

これを受けて金融局は、高額券（五百円、千円）の発行を取り止め、百円券（図柄<以下同じ>：みろくほさつ 弥勒菩薩像）、十円券（ぼざら 伐折羅大将<新薬師寺十二神将の1つ>像）、五円券（彩紋模様）および一円券（たけのうちのすくね 武内宿禰<天皇の家臣として活躍した記紀伝承上の人物>像）の4券種について、同年12月12日にGHQに対して製造・発行の承認を申請しました。



伐折羅大将像の原案



弥勒菩薩像の原案

(写真提供／凸版印刷株式会社)

しかし今度は、GHQは「伐折羅大将の形相は戦争に敗れた日本国民の憤怒を、また弥勒菩薩の表情は国民の悲痛の感情を表している。さらに、武内宿禰は軍国主義のシンボルであり、いずれも肖像としてふさわしくない」として、五円券以外の図柄を変更するよう求めてきました。発行期日を間近に控え、金融局は改めて図柄を一から検討する時間的余裕がなかったため、これへの対応として、

- ①百円券は既に通用していた「い百円券」(聖徳太子像)の刷色を変更して、新円標識(天平雲と桜花)を追加する、
 - ②十円券は伐折羅大将像を国会議事堂に変更する、
 - ③一円券は武内宿禰像を二宮尊徳像にのみやそんとくに変更する、
- といった修正を施したうえで、GHQに再申請し、ようやく1946年(昭和21年)3月からの発行にこぎ

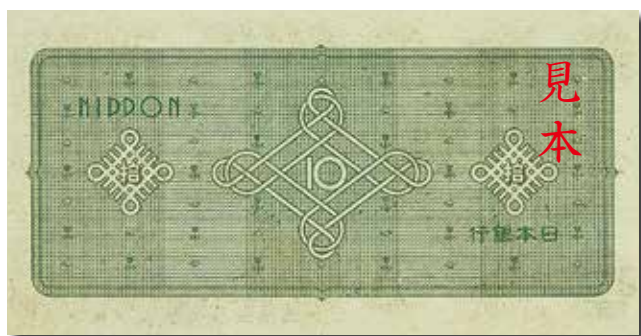
着けました。

こうした苦労の末に流通し始めた新しい銀行券でしたが、敗戦後間もないという世相を反映してか、国民の間では、とくに十円券に対し、さまざまな噂や憶測が、まことしやかに囁かれたそうです。これは例えば、

- ①券表面の図柄は左が「米」、右が「国」、すなわち「米国」の文字をかたどっている、
 - ②券表面左に描かれている国会議事堂が十字架の中に押し込められており、身動きが取れなくなっている、
 - ③券表面右に描かれている皇室のシンボルである菊の紋章が十字架の鎖につながれている、
 - ④券裏面に描かれている小さな花模様の数が米国の州の数(当時)と同じ48個である、
- といったものでした。



A十円券表面



同裏面

発行されなかった日本銀行券

製 造後の情勢等の変化により、発行されるに至らなかった日本銀行券があります。ここでは、その中のいくつかを紹介します。

ま ずは、1927年（昭和2年）の金融恐慌時に緊急製造された「甲五十円券」（裏白五十円券）です。この銀行券は、「乙二百円券」（裏白二百円券）とほぼ同時に、極めて短期間に製造されたもので、「乙二百円券」と同様、裏面には何も印刷されていませんでした。大蔵省は、緊急事態が終息すれば回収する方針

の下、同じ日にこれらの発行の告示を行いました。しかし、「甲五十円券」の発行予定日より1日早く発行された「乙二百円券」や一連の緊急措置によって、金融恐慌が鎮静化に向かったことから、用意していた「甲五十円券」は結果的に発行されませんでした。



甲五十円券

次 の未発行銀行券は、第二次大戦末期から終戦直後（1945年〈昭和20年〉）にかけて緊急準備用として製造された「は十円券」、「い五百円券」、「い千円券」です。もっとも、これらと同じ用途で、少し前（1944年〈昭和19年〉）に製造された「ろ十円券」および「ろ百円券」は、印刷様式を簡略化したものでしたが発行されました。しかし、1945年（昭和20年）に製造された「は十円券」、「い五百円券」、「い千円券」は、出来栄が優れず銀行券として適当でないという理由から、告示が出ないまま未発行に終わりました。

な お、「は十円券」については、偶然印刷工場を視察した大蔵大臣が印刷中の銀行券を見て、従前の十円券よりも小型で、あまりに貧弱な銀行券であっ

たため、かえってインフレ心理を煽り、日本の国力の衰退を大衆に印象づける恐れがあると判断して、その告示と発行を取り止めたとされています。



は十円券



い五百円券



い千円券

続 いて、1946年（昭和21年）に製造された「A千円券」です。この銀行券は、1945年（昭和20年）8月発行の甲千円券の図柄（日本武尊と建部神社）に新円標識（天平雲と桜花）を追加し、刷色を変えることでGHQ（連合国最高司令部）に製造に関する許可申請を行い、その承認を得ましたが、本券の発行によるインフレーションの刺激が懸念されたこ

とや券面に兌換券表示が残っていたことから発行が見送られ、大蔵省の発行告示もないまま未発行に終わりました。



A千円券

参考文献

- 「日本銀行金融研究所貨幣博物館」、1987年
 - 日本銀行金融研究所「貨幣博物館 常設展示図録」
ときわ総合サービス、2017年
 - 日本銀行調査局「図録 日本の貨幣1」 東洋経済新報社、1972年
 - 日本銀行調査局「図録 日本の貨幣7」 東洋経済新報社、1973年
 - 日本銀行調査局「図録 日本の貨幣8」 東洋経済新報社、1975年
 - 日本銀行調査局「図録 日本の貨幣9」 東洋経済新報社、1975年
 - 日本銀行券研究会「お金もの知り博士」 ときわ総合サービス、1997年
 - 大蔵省印刷局「お札なぜなぜ質問箱」 1992年
 - 田中哲二「お金の履歴書」 東洋経済新報社、1984年
 - 植村 峻「紙幣肖像の歴史」 東京美術、1989年
- 「お札の文化史」 NTT出版株式会社、1994年

お金の話あれこれ

編集・発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町2-1-1
電話 03-3277-1609

編集協力 日本銀行発券局
日本銀行金融研究所

本パンフレットの内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行情報サービス局までご相談ください。転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。

